



東京PCB廃棄物処理事業だより (No. 26)

東京PCB廃棄物処理施設の運転状況について

当処理施設の平成23年4月～6月の処理実績は下表のとおりです。

この期間は高濃度PCB廃棄物、低濃度PCB廃棄物とも、全てのPCB廃棄物処理を止め、定期点検業務を行ったために処理台数は他の時期と比較して少なくなっています。

高濃度・低濃度区分	廃棄物種類	4月～6月 処理台数	操業開始からの 処理累計
高濃度PCB廃棄物	トランス類	79台	1,159台
	コンデンサ類	640台	12,392台
低濃度PCB廃棄物	柱上トランス絶縁油	287.4kℓ	8,049.8kℓ

* 高濃度PCB廃棄物については処理に着手した台数を処理台数としています。

* 東京事業所に係る安定器等の受入については、現在停止しております。

東京PCB廃棄物処理事業環境安全委員会が開催されました。

6月30日にポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会が開催されました。当委員会は去る3月11日に開催を予定していましたが、当日東日本大震災が起き延期になっていたものです。

当社から、施設の稼働状況、排出源モニタリング及び敷地境界測定結果、設備不具合・修理の状況、作業安全衛生や教育・訓練、運転トラブル発生状況、ヒヤリハット活動の状況及び労働災害防止対策や3.11大地震発生時の対応などについて報告いたしました。

委員からは、排出源モニタリングへの対応や設備トラブル、労災防止、ヒヤリハットの進め方、地震時の対応等についてご質問やご助言をいただきました。また、電力制限への対応についてもご確認がありました。



安全委員会の様子

節電対策について

東日本大震災の影響により、今年の夏は電力の供給バランスが悪化する見込から、大口需要家には15%削減という需要抑制が実施されることになりましたが、東京事業所は、制限緩和措置の対象施設と認められ、5%削減となりました。実際の運用に当たっては電力の使用変動を考慮して10%以上の削減目標を設定し、使用抑制に取り組んでいます。

具体的には、ヒータの小型化などの設備改造による抑制、電力消費の多い設備を夜間に稼働させる運用の工夫などにより対応することとしています。その他、事務管理区域の節電対策として、窓際照明の間引き、昼休み時の消灯、エレベーターの使用自粛、空調設定温度（冷房28℃）の徹底などにも取り組んでおります。

車載トランスが搬入されました。



7月12日旧国鉄で使用されていた車載トランスが搬入されました。車載トランスは主に鉄道車両で使用されるため、一般的なトランスに比べ高さより横幅の広い特殊な形状をしています。初めての処理対象となるため、安全で効率的な解体処理をいかに進めるか、他事業所での処理も参考にしながら実施することとしています。

高濃度施設の定期点検について

平成23年度の高濃度処理施設の定期点検業務は5月16日から6月15日までの日程で実施しました。この期間中にボイラーや電気設備等の法定点検、主要設備の定期検査及び施設が停止していなければ出来ない工事・点検などを実施しました。また継続的に安全・安定的な操業ができるよう改善工事も行いました。

(1) 安全大会の実施等

定期点検業務を無事故無災害で行えるよう安全大会を実施しました。

JESCO職員及び運転管理会社従業員、点検・整備にあたる工事請負者などの関係者が一堂に会し、安全訓話、安全宣言、安全の誓いなどを行い、注意喚起及び安全意識の共有を図り、全員の安全コールで締めくくりました。

期間中は、入所教育や安全パトロールを強化し、定期点検業務を無事故・無災害で終わることができました。



安全大会の様子

(2) 高濃度施設の定期点検と設備改善



今年の定期点検業務では、安定した処理能力を確保するため、いくつかの設備改善工事を合わせて実施しました。これまでスラリー※処理は1基の水熱反応器に限定されていましたが、2基同時に処理できるようにしました。この他、これまで水熱反応器3基を同時に稼働させると酸素量の不足が懸念されていたため、液体酸素ポンプを同時に2台稼働できるようにするため、液体酸素蒸発器を1基追設しました。写真は新たに設置した蒸発器の据付状況です。

(※スラリー：紙や木を水熱反応器で分解できるように炭化し、細かく砕き泥水状にしたもの)

産業医による熱中症講演会の開催

6月23日に産業医による講演会「熱中症の予防と対策」を開催しました。

熱中症のメカニズムは発汗による気化熱を利用した体温調整が破綻し、体内に熱がたまり塩分喪失、体液量不足などで血流低下となり、発症するとされています。

熱中症は気温・湿度が高く風力弱いなど体温調整に障害の出やすい環境下で、高齢者、肥満者、運動不足の人などが特に発症しやすいとされています。熱中症が疑われたら、涼しい環境下で着衣を脱がせて体温低下を図り、水分・塩分の補給が重要とのこと。

職場での対策として、①休憩時間の確保②熱順化期間※を設ける③水分・塩分の作業前後の摂取の徹底などの環境整備が必要等の話がありました。今年は節電の要請下での猛暑であり、熱中症予防が例年以上に求められており、大変参考になりました。



講演会の様子

(※熱順化期間：熱に慣れ、その環境に適応する期間)

お知らせ

7月～9月は節電対策のため見学を中止しております。



日本環境安全事業株式会社 東京事業所
〒135-0064 江東区青海三丁目地先（中央防波堤内側埋立地内）
Tel. 03-3599-6023
<http://www.iesconet.co.jp/facility/tokyo/index.html>